

「京都と着物と私」



岡崎 陽子さん
(英米語学科4年次生)



津田 知子さん
(英米語学科4年次生)



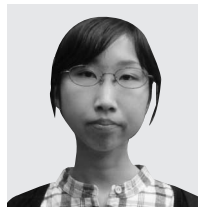
山本 真巳さん
(英米語学科4年次生)

私達は、週に一度坪倉先生に着物の着付けを習っています。最近を着物を着てお出かけする機会が増えました。京都には、着物に関する催しがたくさんあります。また『着物パスポート』も発行されていて、着物を着て行くと割引や各種特典を受けられる店などが京都市内の地図と共にわかりやすく掲載されていますので、とても便利です。

私達がよく利用するお店は、アンティーク着物を扱うお店です。祇園などにあります。店内には、着物をはじめ、着物を着るときに使う小物や髪飾りなど素敵な品物が一杯あります。また若い人たちだけでなく、年配の方々にも合う着物がたくさん並べられていますので、是非お立ち寄り下さい。

最後に図書館には『京の着物はじめ』や『きもの便利帖』などの着物関連の本がたくさんありますので、是非ご覧下さい。

「茶の湯の装い」



柴田 佳織さん
(英米語学科4年次生)



清水 佐代さん
(英米語学科4年次生)

茶道を嗜んでいる人は、お稽古の時やお茶会などで着物を正装として着用します。学生の部活動においてもそれは変わりありません。私達が着物を着て部活動している様々な場面をこれから紹介します。茶道部で着物や浴衣を着る大きな行事が夏休みにある合宿と秋のお茶会です。合宿の3日間は、朝から夕食時まで浴衣や着物を着ます。初めは、歩きにくさと袂があることによる手の動かしにくさに戸惑いますが、合宿が終わる頃には、次第に慣れて動きも軽やかになります。10月の学外茶会と11月の外大祭に行われるお茶会には、この日のために用意した着物を身に纏いお茶席に来られたお客様をもてなします。

また時には、日本語研修プログラムで外大に来られた留学生のための茶道体験の授業で浴衣を着てお手伝いすることもあります。

「花と女性」



坪内 麻弥さん
(英米語学科3年次生)

いけばな発祥の地は、六角堂（烏丸六角東側）です。私達が外大の華道部でお稽古しているのは、この六角堂より発展してきた池坊です。池坊の生け方の様式には、立花、生花、自由花の3つがあります。私達は、まず華道部に入った時には、最初にこの約束事に拘らず自由に生ける自由花という生け方から